



ヘイズ

(マレーシアとシンガポールを悩ませるインドネシアの煙)

1. はじめに

外務省は、「マレーシア及びシンガポール：ヘイズ（煙害）による大気汚染」という警告をWebサイトに掲載しています（本稿執筆時）。日本では耳にする機会が少ない「ヘイズ」は、マレーシア、シンガポール、インドネシアにとって、環境・政治の両面で重要な問題に発展しています。本稿では、この「ヘイズ」にまつわるマレーシア、シンガポール、インドネシアの三国関係を紹介します。

2. PM2.5よりも深刻なヘイズ

上記のとおり、「ヘイズ」とは、煙害のこと。まずは、写真1を御覧下さい。写真1は、マレーシアの首都クアラルンプールの某所から撮影したものです。雨雲（上）が立ち込めているものの、森（下）や高層ビル群（中央）がはっきりと見て取れるかと思えます。

次に、写真2を御覧下さい。白く見えるのは、雲ではなく、煙。眼下の森（下）は何とか視認できますが、高層ビル群は影も形もあ



【写真1】 クアラルンプール（2014年5月 筆者撮影）



【写真2】 クアラルンプール（2015年10月 筆者撮影）

りません。実は、写真2は、写真1と全く同じ場所から撮影したものです。一説によると、ヘイズの煙は、国際宇宙ステーションからも確認できるとか。ヘイズの深刻さをご理解頂けましたでしょうか？

次に、写真3～5を御覧下さい。写真3はシンガポールで一番人気観光スポット「マリーナ・ベイ・サンズ」のスカイウォークを晴天の日に撮影したものです。スカイウォークの上からは、見晴らしの良い絶景を楽しむことができます。

しかし、ヘイズの時期に登ると、眼下は真っ白（写真4～5）。クアラルンプール程ではないものの、スカイウォークの入場料¹を躊躇するには十分な量の煙が視界を邪魔していました。

3. 「インドネシアが悪い」は本当？

上記のとおり、ヘイズの発生原因はインドネシアで行われている野焼き。インドネシアで発生した煙は、海を越えてマレー半島にや



【写真3】 晴れた日のスカイウォーク (KMさん提供)

ってきます。

マレーシアやシンガポールで名刺交換をすると必ず「今日はヘイジー (hazy) だね」という挨拶から始まります。そして、原因を聞けば「インドネシアのせいだ」と返ってきます。マレーシアやシンガポールでは、ヘイズ問題に関してインドネシアが悪者として捉えられているようです。

しかし、インドネシアにも言い分があります。実は、インドネシアで野焼きを行っている企業の中にはマレーシアのプランテーション企業が含まれているようなのです。裁判所がマレーシア企業の非を認める判決を下したという話も聞きます。

このように、ヘイズは、マレーシア、シンガポール、そして、インドネシアを巻き込んだ三国間の政治問題に発展しています。

4. むすび

ヘイズの原因は人為的行為です。その行為が止まらない限り延々と続きます。ヘイズのレベルがひどい場合、学校が休校になることもあります。観光への影響も無視できません。もちろん、発生源であるインドネシアの深刻さはマレーシアやシンガポールのそれを上回るはずで、インドネシア政府の対策も解決には至っていません。

想像以上に複雑な問題を起こしている「ヘ



【写真4】 スカイウォークの上より (2015年10月筆者撮影)



【写真5】 スカイウォークの上より (2015年10月筆者撮影)

イズ」。光化学スモッグやPM2.5を経験した日本の出番もあるかもしれません。

- 1 28シンガポールドル (2015/11/26日時点のレートで2500円)。

著者

木本大介 (きもと・だいすけ)

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>